

感染症の知識

ダニ媒介感染症 編

編集/発行

京都府丹後広域振興局健康福祉部

京都府丹後保健所 保健課

〒627-8570 京都府京丹後市峰山町丹波855

TEL.0772-62-4312

FAX.0772-62-4368

■ダニ媒介感染症とは？

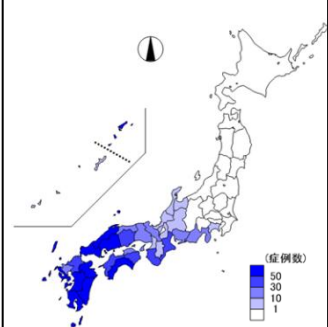


農作業、レジャー等の野外作業で、マダニやツツガムシの生息場所に立ち入ると刺されることがあります。これらのダニが病原体を保有している場合、刺されると重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、日本紅斑熱、つつが虫病などに感染することがあります。丹後管内では、近年、SFTSが年1～2件、日本紅斑熱が年1～3件発生しています。つつが虫の発生は令和6年に1件ありました。なお、マダニの多くは、春から秋(3月～11月)にかけて活動が活発になりますが、冬季も活動する種類もいます。

■流行地域はどこ？

感染症名	流行地域	媒介ダニ
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	西日本で多いが、近年、東日本でも発生(2013年、国内で初確認)	・フタトゲチマダニ ・キチマダニ
日本紅斑熱	西日本で多いが、近年、東日本でも増加(1984年、国内で初確認)	・キチマダニ ・フタトゲチマダニ ・ヤマトマダニ など
つつが虫病	近年、北海道を除く全国で発生	・タテツツガムシ ・フトゲツツガムシ(ダニの一種)

SFTS感染推定地域



JIHSHP2025年7月31日時点

■どうやって感染するの？

感染症名	感染経路	潜伏期間	治療
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	・マダニによる刺咬 ・感染動物、患者との接触	6～14日	支持療法(抗ウイルス薬のファビピラビル(アビガン錠)令和6年承認 ※ただし適正使用の条件あり)
日本紅斑熱	マダニによる刺咬	2～8日	抗菌薬の投与(テトラサイクリン系・ニューキノロン系)
つつが虫病	有毒ダニの幼虫に吸着され感染(吸着時間は1～2日)	5～14日	抗菌薬の投与(テトラサイクリン系・クロラムフェニコール)

■どんな症状がでるの？

感染症名	症状	致死率
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	発熱、消化器症状(嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血)を主徴とし、時に、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴う。	27% (2013～2025年7月末時点推定)
日本紅斑熱	頭痛、全身倦怠感、高熱など。発熱、発疹、刺し口は主要3徴候	1.1% (2007～2019年届出時点)
つつが虫病	39℃以上の高熱。発熱、発疹、刺し口は主要3徴候。倦怠感、頭痛、リンパ節の腫脹	0.5% (2007～2021年届出時点)

(参考文献) 国立健康危機管理研究機構HP 厚生労働省HP 東京都感染症マニュアル 2018 東京都重症熱性血小板減少症候群(SFTS)診療の手引き 2025 日本感染症学会

■感染を防ぐ方法は？

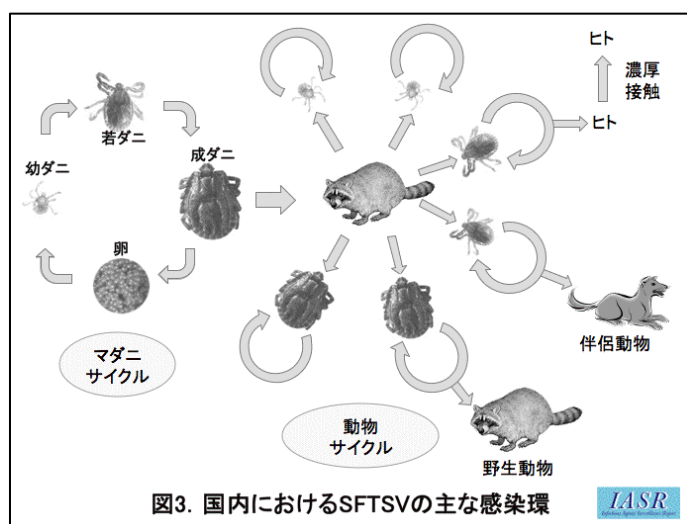
- マダニに刺されないことが重要です。草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合は、
 - ① 長袖・長ズボン(シャツの裾はズボンの中、ズボンの裾は靴下や長靴の中)、足を完全に覆う靴(サンダル等は避ける)、帽子、手袋、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくしましょう。
 - ② 明るい色の服を着ましょう(マダニを目視で確認しやすい)。
 - ③ 虫除け剤の中には服の上から用いるタイプがあり、補助的な効果があると言われています。
 - ④ 作業後は身体や服をはたき、帰宅後は入浴し、マダニに刺されていないか確認しましょう。
- 犬や猫などの感染、動物から人への感染を防ぐには、
 - ① 犬にはマダニ予防薬(ノミ取り首輪等)、猫は完全室内飼育が推奨されます。
 - ② ペットとの過剰な触れ合いは控え、野生動物との接触は避けましょう。
 - ③ 動物に触ったら必ず手を洗いましょう。



■マダニに刺されたら？

- マダニは皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間吸血しますが、気がつかない場合もあります。
- 吸血中のマダニは無理に引き抜かず、医療機関(皮膚科等)で処置してもらいましょう。
- マダニに刺された後に発熱等があった場合は、医療機関を受診し、刺されたことを伝えましょう。

■マダニが増える原因は？



◆マダニサイクル

SFTSVウイルスはマダニのすべてのステージで伝播され、卵にも伝播します。一匹のウイルス保有雌マダニの産卵により、数多くのウイルス保有幼ダニが生まれます。

◆動物サイクル

ウイルスに感染した動物はウイルス血症になり、その動物を咬んだマダニはウイルスを獲得します。一頭のウイルス血症の動物から多数のウイルス保有マダニが発生します。

出典: 動物における SFTSV 感染の疫学調査 (IASR Vol.40 p116-117:2019 年 7 月号)

■マダニの生態は？

マダニは、ダニ類の中でも比較的大型で、成長や産卵のため血液を栄養源とする吸血性の節足動物です。成長過程において、吸血を3回行ない、脱皮を2回行ないます。この複数回の吸血時に病原体を動物間で橋渡しすることで、ダニ媒介感染症が発生します。

■マダニの生息場所？

イノシシなどの大型動物にはタカサゴキラマダニ、犬などの中型動物や牛などにはフタゲチマダニが外部寄生しています。フタゲチマダニは乾燥に強く、公園や河川敷、牧野などでも生息が可能で、全国に広く分布しています。また、キチマダニなどは身近な野鳥にも外部寄生するため、神社等の林でも確認されます。

マダニの成長

マダニには3つの発育期があり、幼ダニ、若ダニを経て、成ダニへと成長する(図1)。



図1. マダニの生活環 3回の吸血と2回の脱皮を経て成長し、飽血したメス成ダニが産卵を行なう。なお、種にもよるが、オス成ダニも僅かながら吸血を行なう。

出典: 山口獣医学雑誌 第42号(マダニの生態とマダニ媒介性感染症: 高野 愛)